

第4回事業計画検討会での主な意見と対応方針(案)

分類	番号	主な意見	事業計画への反映状況等
追浜の地域性 ・ 交流空間	1	・ 追浜駅周辺は、利用者や地域別・時間帯別に様々な顔があるため、それらが縦軸・横軸でうまく連携してまちづくりを進める必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追浜のポテンシャルとして、様々な属性の人が来訪していることから、P11にて「交流空間創出」の方向性を提示 ・ 今後の計画深度化に併せ、まちづくりとの連携方策など、必要な検討を実施予定
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の問題解決だけではなく、少し広範囲の役割や機能などを説明できるとよい ・ 賑わい・活性化と交通整序化をどう両立させるかが大切である 	
	3	・ 働く人・生活する人の両者の効用を最大限得られるように考えていくべきである	
	4	・ アンケート結果について、来訪頻度等によるクロス分析が必要ではないか	
交通安全	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者動線について、実際のニーズとすり合った動線にしないと、安全性の懸念もある。空間配置や信号制御も含め、1Fレベルの動線の工夫方法について引き続き検討して欲しい ・ デッキ下が暗くなってしまわないように、照明等も考えていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P17の文言、図を修正 ・ 具体の検討は、ご指摘を十分受け止めた形で実施予定
	6	・ 今後の設計を行う際に、自転車の交通安全について、国道16号線の自転車の右左折ルート等の処理方法や駐輪場の位置も含めた深度化が必要である	
防災機能	7	・ 平常時・災害時の両面で活躍できるバスタを目指し、情報の一元化と提供の仕組みをしっかりと考えていくべきである	<ul style="list-style-type: none"> ・ P20の文言を修正 ・ 今後の計画深度化に併せ、情報収集・提供方法の具体化や災害時の空間活用方法について検討を実施
	8	・ 災害時の情報については提供だけでなく、身障者側が持つニーズをいかに把握するか、双方向の情報収集が大事である	
	9	・ 費用との兼ね合いもあるが、災害対応を想定した余裕ある計画も必要ではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ P21に三浦半島全体の災害時の改善シナリオを追加
	10	・ 過去の災害時の対応等を踏まえ、整備前後で市民がどう救われるかを示し、市民の方にも納得性の高い計画にしていくべきである	
	11	・ 今回のマクロ的な視点の分析に加え、災害のタイムライン・拠点運用のシナリオ等を如何に設定し、分析に反映していくかが大切である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の防災機能評価では、ミクロなタイムライン等を踏まえたものになっていないため今後の課題とする
その他	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代の交通結節点の視点から、ユニバーサルデザインは必要な機能である ・ 当事者団体の意見をどう取り入れるかを検討した方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体プロセスは今後深度化するが、P17に、今後、専門家や福祉団体等の意見を取り入れる旨を追記
	13	・ 市道追浜夏島線の断面構成については、将来の時点や平日・休日の違い等を加味し、可変的な形で考えるのがよいのではないか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央分離帯を明記しない形にP24を修正。具体検討は今後深度化